

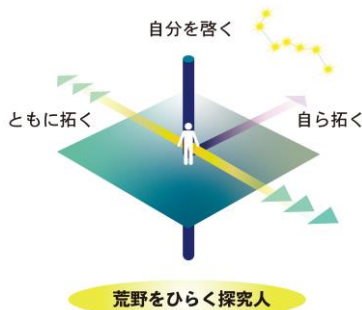


1. 馳せる一新たな礎のその先へー

校長先生は、北高祭を「長く続いたコロナ禍を皆の力で克服するために前向きに実施する、北高生にしかできない素晴らしい北高祭にしてほしい」と話されました。天候にも恵まれ、3日間の北高祭を行うことができましたが、みなさんはいかがでしたか。

保護者や外来者に入場していただくことはできませんでしたが、準備段階から本番まで、君たちの楽しそうな姿を見て、学生生活の大切な思い出の1ページとなる学校祭を実施できたことに大きな意味があり、良き思い出ができたのではないかと思います、本当によかった。

成功の背景には、生徒会執行部はじめ各種委員長、文化委員会、体育委員会、家庭クラブ委員会、応援団など、作業に携わってくれたみなさんの献身的な努力がありました。みなさん、たいへんお疲れさまでした。



学校行事である北高祭は、先輩方の作り上げてきた伝統の下、生徒会が中心にルールを作り・守り、新しいことに挑戦してきました。コロナ禍の中、企画、準備、感染対策とみなさんの協力があり、やりきることができました。

来年の北高祭は、より生徒主体のものになってほしいと私は考えています。私の想いは、生徒をこれはダメ、あれはダメと「管理・統制」するのではなく、生徒が考えて、生徒が生徒に働きかけ、生徒自身が自らの判断で様々なことを決定し、生徒が生徒の手で自治する。それが、左のロゴマーク「スクール・ポリシー」のイメージ図だと信じています。中央にいるみなさんは、どの方向に進むか自分で考えて、自分の意思で決めて、進む。北高祭を「荒野をひらく探究人」に成長するための礎を育む最高・最良の場にしてほしい。いまから1年かけて準備をしましょう。スクール・ポリシー実現ために、生徒会や委員会の改革も行っていきたいですね。

残念ながら北高祭に参加できなかった生徒もいます。コロナでつらい思いをした人もいるでしょう。大変なことがたくさんありますが、今後、みなさんの知恵と勇気、そして力で乗り越えていきましょう。この年度の最後まで、3年生は卒業まで、頑張ってください。知恵と勇気、力があれば大丈夫です。自分の目標を定めたら、その方向に全力で「馳せて」ください。今体はここにあっても、心は自分の夢や進むべき未来に「思いを馳せて」ください。

2. 北高祭中に残念だと思ったこと、気になったこと

北高祭初日、「実に不本意ですが」と前置きをして、みなさんに“想像力の欠如”という話をしました。なぜこの言葉を用いたか？ その理由は、少し立ち止まって想像すれば（考えれば）、その善悪を君たちなら判断できるはずだからです。

北高祭はお祭りではありません。したがって、自分たちがやりたいことをやりたいようにやってもよい、何をやっても自由ということではありませんよね。北高祭だけでなく、ホームルーム活動、生徒会活動やその他学校行事は、学校の教育活動の1つです。これらを通じて、各教科・科目等の学習だけでは育めない資質・能力の伸長を図る、とても大切な活動です。

①服装と頭髪

☞【校内外の生活、身だしなみに関する生徒と教職員の申し合わせ事項】には、「服装や頭髪等の身だしなみは、個人の品性や心情、生活態度をあらわすものであり、また、学校生活の雰囲気を作り上げる重要な要素でもある。岐阜北高校は、教育目標にあるとおり「倫理観や規範意識に基づく社会性を育む」場であるため、その場に適切であるかどうか、一般的規範も含めて生徒自らが考え、制服とともに品性を保って着こなして欲しい。」と記されています。この内容が実に曖昧であることは否めません。でも、こうすることで“考えて判断する余地”を残しているのです。規則や秩序が曖昧だから自分勝手な考えで、好き放題やってもよいということでは決してありませんし、そもそも不必要な加工（染髪・パーマ）は認めていません。これに異議申し立てがあり規則の改正を求めるのなら、正規の手続きを踏みましょう。

②勝手な外出

☞ 自分勝手な都合で、自分勝手な解釈で、勝手な判断で、自分勝手な行動をした生徒が複数いました。もし北高祭中の

服装が、規制を緩和せず制服のみに限定していたら、同様の行為は起こっただろうか。少なからず、制服を着用していたら、世間も目もあるので無断外出の発生件数は少なかったと私は思います。

③リーダーとしての存在感

☞ 夏休み前から練習を頑張ってきた応援団、みんなの頑張りが体育祭に花を添えてくれました。ありがとう!!

しかし、リーダー的存在である応援団が、リーダーとして十分機能していなかったことを私はとても残念に感じました。応援団とは、自分たちの演舞と写真撮影、卒業生との談笑に終始するのではなく、体育委員とともに体育祭実行委員のような存在であるべきでした。応援合戦だけでなく、事前の会場設営、集合時の団の統制、競技の招集、競技の運営や競技者へのエール、団席の管理、後片付けなど、率先して活動する応援団の姿を見て、各団が一致団結できるし、それが応援団としてのプライドだと思います。競技に参加している団員に、他の団の演舞に敬意をはらって観る姿勢はありましたか？ 団席を離れ、自分たちの準備や写真を撮るのに忙しそうにしていたように私は感じました。ここは特に来年度に向けて、大きく改善してもらいたい点です。

3. 人にはできないことこそが個性

植松努さんの『あきらめない練習』より紹介します。

※TEDxSapporo「Hope invites」もおすすめです。20分強の動画で元気になれます。



『「どうせ無理」と思っている君へ 本当の自信の増やし方』

「人の役に立つ人になりたい」最近の子どもたちは、よくこう言います。では、「人の役に立つ」とはどんなことでしょうか。残念ながら、「ほめられる」「感謝される」を「人の役に立つ」だと思込んでいる人が少なくありません。ほめられる、感謝されるというのは、人の役に立った「結果」です。「ほめられたい、感謝されたい」が動機では、少しでもつらくなったら、「思っていたのと違った」と言って、やめるはめになるでしょう。また、「人の役に立つ」ということを「素直で真面目に人の言うことをきくこと」と思っている人もいます。そんなふうには教えてはいけません。それでは、自分より素直で真面目で安価な存在に負けるのが必至です。

「人の役に立つ」というのは、「必要とされる」ことです。人から必要とされるためには、「能力」が必要です。人が持っている能力が必要です。その能力は、その人がしていない経験で身につきます。だれもができる経験しかしていないと、誰にでもできることしかできないために、誰からも必要とされません。

その場合、必要としてもらうためには、「安い」「たくさん」で選んでもらうしかありません。今、世の中はすごい勢いで発展しています。個々の人たちの能力がどんどん向上しています。その世界で必要とされるためには、昔よりも多くの努力が必要です。キーボードを速く叩ける、というのはもはや必要を通り越して、当たり前になっていますよね。しかし、スマホに頼りすぎて、パソコンを持たないという若者も増えていて、「キーボードが打てません」なんて言う世代も増えていきます。こういう人たちは、パソコンから遠い仕事をするしかなくなります。そして、そういう仕事は今、激減しています。もちろん、将来的にはキーボードを使わないインターフェースも増えてくるでしょう。そのときには、そちらが使えて当たり前になるでしょう。

人は、人から必要とされたいのです。そのときに重要なのは、自分ならではの経験です。そのためには、自分で考えて自分で試すのが重要です。それは、きつと個性になっていきます。でも、今の学校は、個性の正反対にあるような気がします。なぜなら、個性を尊重したら、統率がとれないからです。じゃあ、社会は、統率がとれていないのでしょうか。

大学は統率がとれているのでしょうか。統率しないと、破綻するのでしょうか。

僕は、会社を経営しながら悩みます。「なぜ働くのか?」「なぜ宇宙開発をするのか?」「なぜ学校からの見学を受け入れるのか?」そういう働くことに関しての価値観を共有していないと、力を合わせることができないからです。そして、その共有のためにもっとも大事なことは、この疑問をお互いにたくさん考えるということです。もしかしたら、**統率の必要はないのかも**もしれません。しかし、**カオスでは力を合わせられません**。だからこそ、「なぜやるのか?」をたくさん考える機会を作るべきだと思います。その機会を提供する場を増やすべきです。その思考から先ほどの「個性」が生まれます。本物の個性は、人から必要とされます。そうして初めて人の役に立つことができます。

これは本質の話ですね。みんな得意なことはあるはず。得意なことを磨いていって、普通の人ができないことができるようになれば必要とされます。他に代わりがない、これが個性です。人と違う服装や髪型をするのが個性ではなくて、人にはできないことをできるのが個性。これが北高生の目指すべき“荒野をひらく探究人”なんじゃないかな。

あなたは どう 思いますか？